

町田市のスポーツ推進の現状と課題

国、東京都の動向

第2期スポーツ基本計画（国）

■ ポイント

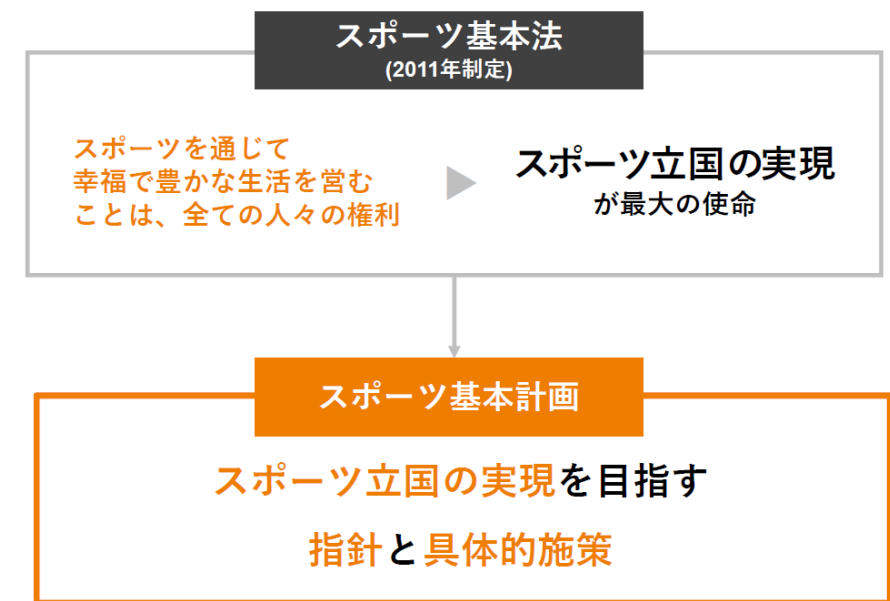
1. スポーツの価値を具現化し発信。スポーツの枠を超えて異分野と積極的に連携・協働。
2. 数値を含む成果指標を第1期計画に比べ大幅に増加（8⇒20）。
3. 障害者スポーツの振興やスポーツの成長産業化など、スポーツ庁創設後の重点施策を盛り込む。

■ 4つの指針

1. 「人生」が変わる！：スポーツで人生を健康で生き生きとしたものにできる。
2. 「社会」を変える！：共生社会、健康長寿社会の実現、経済・地域の活性化に貢献できる。
3. 「世界」とつながる！：多様性を尊重する世界持続可能で逆境に強い世界クリーンでフェアな世界に貢献できる。
4. 「未来」を創る！：2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を好機として、スポーツで人々がつながる国民運動を展開し、レガシーとして「一億総スポーツ社会」を実現する。



スポーツ基本計画とは？



東京都スポーツ推進総合計画

■ 3つの政策目標

1. スポーツを通じた健康長寿の達成
2. スポーツを通じた共生社会の実現
3. スポーツを通じた地域・経済の活性化

■ 3つの視点と30の政策指針

3つの政策目標の実現に向けては、「する・みる・支える」の3つの視点から課題を整理し、30の政策指針により具体的な取組を明らかにしています。

■ 9つの達成目標

それぞれの政策目標において進捗状況を的確に把握するために合計9つの達成指標を掲げます。

■ 基本理念

「スポーツの力で東京の未来を創る」

都民のスポーツ実施率 70%を達成し、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、スポーツの力で人と都市が活性化する「スポーツ都市東京」を実現します。

計画期間：平成30(2018)年度～平成36(2024)年度

政策目標	達成指標	現状	2020年	2024年度
01 スポーツを通じた健康長寿の達成	1年間にスポーツを実施しなかった都民(18歳以上)の割合	15.0%	7.5%	7.5%を維持
	スポーツが「嫌い」「やや嫌い」と回答する中学2年生の割合	男子 11.8% 女子 21.8%	-	男子 5% 女子 10%
	1年間にスポーツを支える活動 ^{※1} を行った都民(18歳以上)の割合	13.1%	20%	20%を維持
02 スポーツを通じた共生社会の実現	障害のある都民(18歳以上)のスポーツ実施率	19.2% ^{※2} (全国数値)	-	40% ^{※3}
	20～30歳代女性(都民)のスポーツ実施率	42.0%	50%	55%
	60歳以上の都民のスポーツ実施率	65.5%	75%	75%を維持
03 スポーツを通じた地域・経済の活性化	1年間にスポーツを直接観戦した都民(18歳以上)の割合	39.3%	50%	50%を維持
	東京2020大会に出場する都が発掘・育成・強化したアスリート数	-	オリンピック 100人 パラリンピック 25人	(成果等を踏まえ検討)
	都内のスポーツ市場規模(スポーツGDP)	0.57兆円	1.04兆円	1.46兆円

※1：スポーツを支える活動：スポーツの振興やスポーツボランティアの実施、子供のスポーツの見守り等、スポーツを行う人を支える活動を指します。 ※2：全国数値は20歳以上 ※3：平成33(2021)年までの達成を目標とします。

項目	達成指標	現状	2020年	2024年度
1年間にスポーツを実施しなかった都民(18歳以上)の割合	15.0%	7.5%	7.5%	7.5%を維持
スポーツが「嫌い」「やや嫌い」と回答する中学2年生の割合	男子 11.8% 女子 21.8%	-	男子 5% 女子 10%	
1年間にスポーツを支える活動 ^{※1} を行った都民(18歳以上)の割合	13.1%	20%	20%	20%を維持
障害のある都民(18歳以上)のスポーツ実施率	19.2% ^{※2} (全国数値)	-	40% ^{※3}	
20～30歳代女性(都民)のスポーツ実施率	42.0%	50%	55%	
60歳以上の都民のスポーツ実施率	65.5%	75%	75%	75%を維持
1年間にスポーツを直接観戦した都民(18歳以上)の割合	39.3%	50%	50%	50%を維持
東京2020大会に出場する都が発掘・育成・強化したアスリート数	-	オリンピック 100人 パラリンピック 25人	(成果等を踏まえ検討)	
都内のスポーツ市場規模(スポーツGDP)	0.57兆円	1.04兆円	1.46兆円	

政策指針	政策指針	政策指針
「する」スポーツ	「みる」スポーツ	「支える」スポーツ
01 スポーツをすることへの関心喚起	06 スポーツをみることの魅力発信	08 スポーツを支える人材の育成
02 スポーツを始める機会の創出	07 スポーツをみる機会の創出	09 スポーツによる事故防止等の推進
03 スポーツを身近でできる場の確保		10 スポーツを支える都民の顕彰等
04 成長段階にある児童・生徒の体力向上		
05 競技力向上の取組を通じたスポーツ実施の推進		
11 誰もが楽しめるスポーツへの理解促進	16 障害者スポーツの更なる魅力発信	18 多様なスポーツの振興に向けた人材の育成
12 障害の有無に関わらないスポーツ振興	17 誰もが気軽に観戦できるスポーツ環境の整備	19 多様なスポーツを支える基盤づくり
13 幼児・子供のスポーツ振興		20 スポーツを通じた被災地支援
14 高齢者のスポーツ振興		
15 性別に関わらないスポーツ振興		
21 スポーツクラスターを核とした地域の活性化	25 スポーツ観戦の魅力発信	28 スポーツに関する技術開発・市場開拓への支援
22 官民連携によるスポーツ気運の醸成	26 アスリートの活躍を通じたスポーツ気運の醸成	29 地域や経済の活性化に寄与した団体等の顕彰
23 東京を活性化させるスポーツイベント等の展開	27 スポーツ施設における観客の満足度向上	30 スポーツを通じた国際交流
24 地域におけるスポーツ活動の推進		

2020年までに都民(18歳以上)のスポーツ実施率

70%

を達成
(2020年以降はこれを維持)

町田市の現状

町田市の課題と対策 【町田市5カ年計画 17-21】

「生産年齢人口の減少・超高齢化」への対応

- (1) 若年層の定住促進
- (2) まちの魅力向上
- (3) 急激な高齢化に対応した新たな安心の仕組みづくり

「構造的収支不足の拡大」への対応-公共サービス改革-

- (1) 市役所の生産性の向上
- (2) 多様な担い手との協働
- (3) 公共施設における行政サービス改革

「東京2020オリンピック・パラリンピックの開催決定」への対応

(1) スポーツ振興 (一部抜粋)

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を機に、市民のスポーツへの関心を促すほか、キャンプ地として他国の代表選手たちを招致し、トップスポーツと地域スポーツの連携を深めていきます。

3つのホームタウンチーム=トップスポーツを支援することで、経済の活性化及びまちの魅力の発信を行っていきます。

地域スポーツの普及・推進を図ることで、人々のつながりを築き、地域活性化を図ります。スポーツは健康増進にも有効であることから、健康寿命の延伸にもつながります。

町田市はスポーツを通じ、地域活性化、魅力発信、健康増進を実現していきます。

- (2) 文化振興
- (3) 3カ年のシティプロモーションの展開

町田市スポーツ施設整備構想懇談会による提言 (総論)

- ① 「見るスポーツ」を楽しめる場づくりとスポーツを通じたにぎわいの創出
- ② 「見るスポーツの場」と「するスポーツの場」のすみ分けを検討する
- ③ ホームタウンチームにとっても魅力的な環境を整備する
- ④ 町田市の社会課題を総合的に解決していく拠点としての整備方針を検討する
- ⑤ 町田市のスポーツ施設それぞれの状況をふまえ、優先度の高い施設から整備の方針を検討していく

町田市と多摩26市との比較

- 市の人口に対するスポーツ推進委員の人数が最も少ない (市民約2.8万人に対して1人)。また、若い世代のスポーツ推進委員が少ない。
- 地域スポーツクラブの設置数は3番目に多い (市民約7.1万人に対して1クラブ)。
- 1スポーツ施設に対する市の人口は2番目に多い (市民約1.2万人に対して1施設=人口に対して施設が少ない)。

市民の意向 【スポーツに関する市民意識調査アンケート】

■スポーツの実施について

- 「週3日以上」スポーツを実施している人が30.7%と最も多い
- 30、40歳代で週1日以上スポーツを実施している人は少ない
- スポーツを「ほとんどしない」市民は26.6%
- 「現在、スポーツを行っていない。また、これから先も、するつもりはない。」市民は17.6%、小学生は20.5%、中学生は20.6%

■スポーツの観戦について

- スポーツ観戦について、「好き」「どちらかといえば好き」は合わせて71.3%
- スポーツを「町田市内の会場で観戦した」市民は11.5%

■スポーツ施設について

- 市のスポーツ施設を「利用したことはない」市民は44.4%
- 「身近なところで利用できる施設の新設」を求める市民が最も多く45.2%

■スポーツ情報について

- 知りたいスポーツ情報は「スポーツ施設の利用案内」が最も多く50.7%
- 「入手していない」は28.7%

■ホームタウンチームについて

- チームの認知度 (「知らない」「無回答」以外の回答の合計) は、2017年度調査において「FC町田ゼルビア」が91.3%、「ASVペスカドーラ町田」が47.7%、「キャノンイーグルス」が25.6%となっている。
- 2016年度と比較して、大きな変化は見られない。

■東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ2019について

- 「子ども達に夢や希望を与える」が最も多く56.9%
- 「効果があるかわからない」が14.5%

■町田市のスポーツ推進のために、今後力を入れるべきだと思うこと

- 「子どものためのスポーツ推進」が最も多く44.1%
- 「子どものためのスポーツ推進」「スポーツによる健康づくり」「高齢者のためのスポーツ推進」が30%以上と多くなっている

■子どものスポーツの推進について

- 子どものスポーツや外遊びの環境が「悪くなった」「どちらかといえば悪くなった」という回答は合わせて51.1%
- 子どものスポーツや外遊びの環境を充実するために力を入れたらよいと思うことは「子どもが体を動かしたくなる (動かせる) 場の充実」が最も多く61.0%

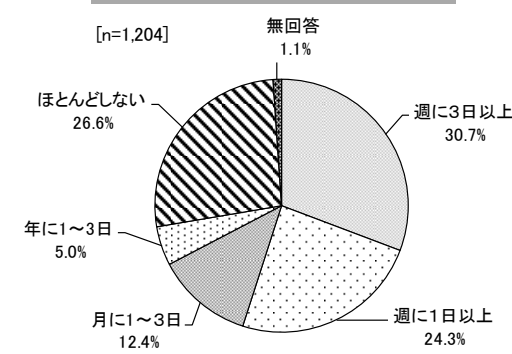
小中学生の意向

【スポーツについてのアンケート】

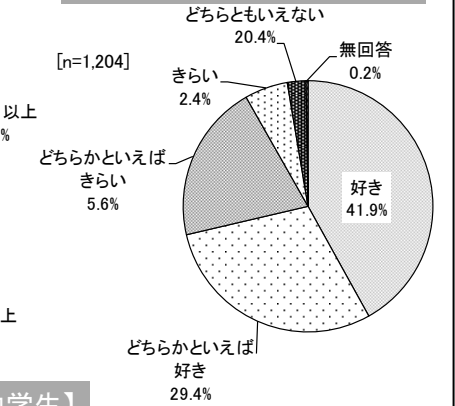
- 運動やスポーツをすることについて、「好き」「どちらかといえば好き」の合計は、小学生で89.4%、中学生は82.5%
- 運動やスポーツを見ることについて、「好き」「どちらかといえば好き」の合計は、小学生で69.2%、中学生は69.5%
- 運動やスポーツの実施頻度は、小学生は「週に3日以上」が41.4%と最も多く、ついで「週に1日以上」が36.3%、「月に1~3日」中学生は「週に3日以上」が70.1%と最も多く、ついで「週に1日以上」「月に1~3日」が9.0%

※課題につながる個所に下線を引いています。

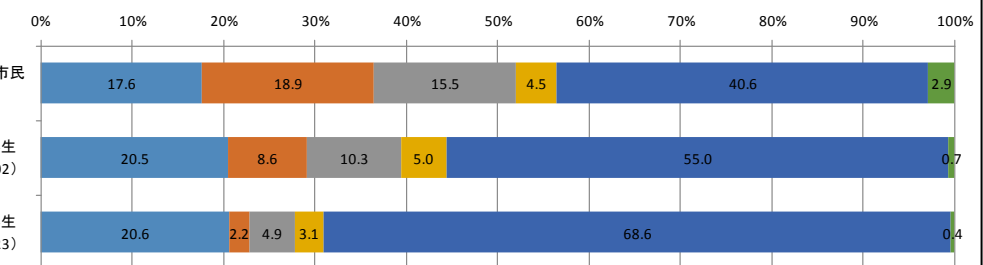
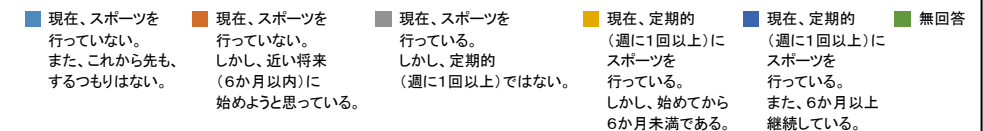
スポーツの実施頻度【市民】



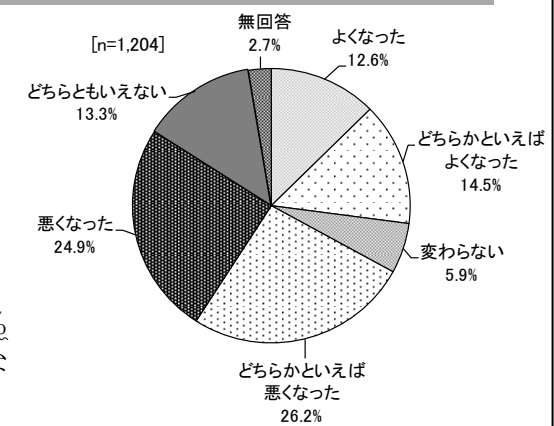
スポーツの実施頻度【市民】



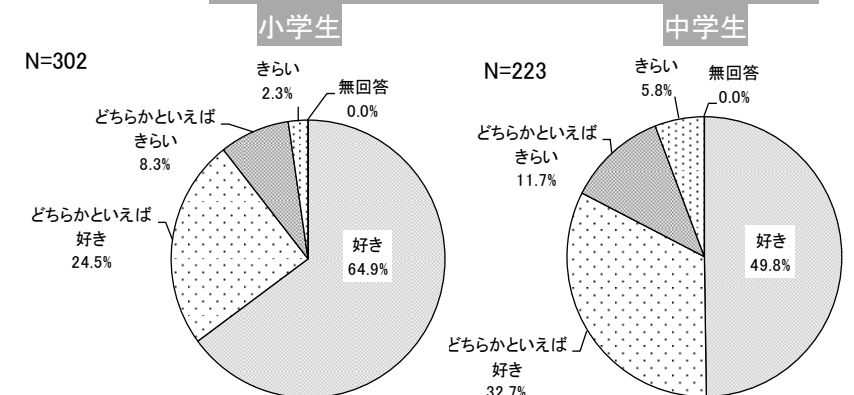
スポーツの実施状況や考え方【市民、小中学生】



今の子どものスポーツや外遊びの環境【市民】



運動やスポーツをすることが好きか【小、中学生】



施策展開における課題の整理（案）

◆スポーツへの関心を喚起する

ライフステージに応じたスポーツ実施率向上の取組が必要

- ・約5人に1人の「今後もスポーツをするつもりはない」市民への施策が必要
- ・30、40歳代でスポーツ実施率が低い
- ・「子どものためのスポーツ推進」が求められている

スポーツ観戦機会の拡充が必要

- ・スポーツを「市内で観戦した人」が少ない
- ・「見るスポーツ」を楽しめる場づくりが必要

より多くの市民にスポーツ情報を周知することが必要

- ・約3人に1人の市民がスポーツについて「情報を入手していない」

◆スポーツを通じた健康づくりの取組を充実する

- ・約4人に1人のスポーツを「ほとんどしない」市民の運動不足解消等の取組が重要
- ・スポーツによる健康づくりが求められている

◆スポーツを支える人材と組織を育成する

- ・多摩26市で比較すると、市の人口に対してスポーツ推進委員の数が少ない
- ・30歳代以下のスポーツ推進委員がいない
- ・スポーツを支える人材、組織の育成が必要

◆市民の生活に身近なスポーツ環境を整備する

- ・より多くの市民が市の施設を利用できるための取組が重要
- ・「身近なところで利用できる施設の新設」という要望（最も多い回答）への対応を検討することが求められている
- ・スポーツ施設のバリアフリー化等の環境整備を検討することが望ましい
- ・小学生から中学生にあがると、体育の授業、部活動以外でスポーツをしなくなる
- ・多摩26市で比較すると、市の人口に対してスポーツ施設の数が少ない

◆スポーツを活用してまちを活性化する

- ・ホームタウンチームの認知度に差がある
- ・ホームタウン、スポーツ関係団体と連携した、スポーツを通じたまちの活性化・魅力向上やにぎわい創出が求められている
- ・町田市の社会課題を総合的に解決していく拠点としての整備方針を検討することが重要
- ・ホームタウンチームにとっても魅力的な施設の整備が必要

計画推進における課題（案）

◆“将来の姿”に対応した達成目標を設定する必要がある

◆事業の実施主体との情報共有を十分に行う必要がある

◆事業財源の確保が必要（現行計画 P.39 より）

◆取組みの評価の仕組みを構築する必要がある

第●章
「計画の推進にあたって」に記述

スポーツ推進の方針（案）

◆市民のスポーツへの参加機会を拡充する

市民の状況に応じたスポーツの参加機会の拡充

子ども、成人、高齢者といったライフステージとともに、勤労者、子育て期の保護者、障がいのある人など、個人の状況に応じてスポーツに参加できる機会を充実していく。

スポーツの魅力を活かした取組の推進

スポーツを通じた身体の健康づくりだけでなく、食育や栄養学といったアプローチや心の健康づくりにも取り組んでいく。
仲間づくりやいきがづくりなど、競技スポーツとは異なる視点で「スポーツに関心のない市民」にスポーツの参加機会を提供する。

◆スポーツ実施につなげる人材、組織体制を拡充する

多様な人材の育成

レクリエーションスポーツ、競技スポーツ、障がい者スポーツなど、多様なニーズに応じて適切な指導を行うことができる人材を育成する。また、スポーツを支える市民の育成・支援にも取り組む。

スポーツ団体の育成

市民の多様なニーズに応じたプログラムの充実など、組織的に市民のスポーツ実施につなげる団体を支援していく。
市民が主体となった地域スポーツクラブの活性化を支援していく。

◆スポーツ環境を充実する

市民の身近なスポーツ環境を整備

新たなスポーツ施設の整備を検討するとともに既存施設の利用拡大の方法、イベント等の効果的な情報発信に取り組む。
施設のバリアフリー化等、障がいの有無に関わらず身近なところで誰もがスポーツを楽しめる環境を整備していく。

学校等と連携した地域の活性化

市内の小中学校、大学等と連携し、校庭や体育館の開放、スポーツ教室の実施など、行政と地域が連携してスポーツの場づくりに取り組む。また、個人の環境の変化に関わらず身近にスポーツに親しめる環境づくりにも取り組む。

トップレベルのスポーツを観戦・体感できる機会の提供

トップレベルのスポーツを観戦・体感できる環境づくりに取り組む。ホームタウンチームにとっても魅力的な施設整備を検討する。

◆スポーツを活用して町田の魅力を向上する

スポーツ情報の発信力の強化

「する」「見る」「支える」それぞれの視点に立ち、市民スポーツとトップスポーツの総合的な情報発信に引き続き取り組む。

スポーツを活用したまちの魅力向上

ホームタウンチームをはじめとしたスポーツ関係団体だけでなく、町会自治会等と連携してにぎわい創出するとともに、町田で暮らす人々の生活をどのようにデザインしていくかを考えていく。

ホームタウンチームと協働した市民の誇り、スポーツ気運の醸成

ホームタウンチームを支えるとともに、チームが市民の誇りとなるよう、気運醸成に取り組む。

次期計画の構成（案）

将来の姿「スポーツで人とまちが一つになる」

将来の姿（具体的なイメージ（仮））
「市民誰もが生涯にわたりスポーツを楽しみ、市がスポーツ活動を支え、スポーツを通じてまちの魅力が高まる。」

基本目標1. スポーツへの参加機会の充実

基本施策（1）子どものスポーツ推進

基本施策（2）働き盛り世代・子育て世代のスポーツ推進

基本施策（3）高齢者のスポーツ推進

基本施策（4）障がい者のスポーツ推進

基本目標2. スポーツに関わる人材と組織の充実

基本施策（1）指導者の育成

基本施策（2）スポーツ団体の育成

基本目標3. スポーツ環境の充実

基本施策（1）「する」スポーツ施設の充実

基本施策（2）「みる」スポーツ施設の充実

基本目標4. スポーツを通じたまちづくり

基本施策（1）スポーツ情報の発信

基本施策（2）スポーツを通じた地域活性化

基本施策（3）スポーツのまちとしての気運醸成

基本施策（4）ホームタウンチームの支援・協働

第●章「計画の推進にあたって」

「計画推進のための財源確保（現行計画第4章参照）」など、施策以外で課題解決に向けた考え方を明確にします。